

受賞住宅は全国でFC展開

2018年省エネ住宅大賞を受賞

室蘭・住まいのウチイケ

3月25日、ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2018 の表彰式が東京都千代田区の霞が関ビルで行われ、(株)住まいのウチイケ（北海道室蘭市）、鈴木環境建設(株)（宮城県石巻市）、泉北ホーム(株)（大阪府堺市）の3社が大賞を受賞した。住まいのウチイケは道内ビルダーで初めての大賞。同社は、受賞を契機に住宅FC（フランチャイズ）事業も始めた。

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーは、省エネルギー性能に優れた住宅を、東京大学名誉教授坂本雄三氏らが構成する審査委員会が「外皮・設備の省エネルギー性」「多様な省エネルギー手法の導入」「省エネルギー住宅普及への取り組み」の3つの視点で審査し、大賞、特別優秀賞、優秀賞を決定する。同社は2014年から5年連続で応募しており、「eco-house ZeRo」は昨年まで4年連続で特別優秀賞を受賞していた。今回は同住宅に加え、標準仕様の「eco-house standard（エコハウススタンダード）」も応募し、こちらが大賞に輝いた。

内池秀光社長は、「省エネルギー住宅普及への取り組みで、標準仕様が高性能だということの評価していただいたのではないかと話している。

「eco-house standard」は、外壁部の断熱仕様はグラスウール充填 105mmに付加断熱としてフェノールフォーム断熱板 66mm。窓はエクセルシャノンのトリプルシャノンⅡ x・UFシリーズを採用。UA値は0.23Wと国の省エネ基準の2倍の断熱性能。

内池社長は、「大規模なハウスメーカーも小規模な工務店も同じものさしで評価される性能評価住宅に早くから積極的に取り組んできた。トリプルガラス入りサッシを標準仕様とするなど、断熱性能を強化することで光熱費の安さが次第に評判となり、紹介受注の比率が増えてきた」と話す。

2018年度は、胆振管内で住宅44棟を受注。このうち14棟はZEHだ。住宅会社別の確認申請件数では、今年2月時点で2018年度累計が管内第1位という。

同社では、高性能住宅は「価格は高いが元が取れる」ことを顧客に示すため、営業社員全員が光熱費計算ソフトを使いこなせるように教育。顧客の目の前で省エネ基準レベルの住宅と比較してどれくらい暖房費が安くなるかなどを提示させ、長い目で見てお得なことを顧客に納得してもらおう。



本社事務所で賞状を手にする内池社長

10社限定で入会金半額キャンペーン

同社では、大賞を受賞した「eco-house standard」と光熱費シミュレーションなど提案手法も含めたノウハウを提供する住宅FCを4月から開始した。胆振管内以外の道内を含む全国でFC加盟店を募集。入会金は100万円だが、先着10社に限り、大賞受賞記念として50万円に割引く。5年目に56社の加盟を目指す。

加盟店に対しては、設計した住宅の暖冷房費シミュレーション、BELS取得の計算、全館空調の設計などのサポートを行う。

入会条件など、詳細な問い合わせは、本社（☎0143-42-4118）へ。